

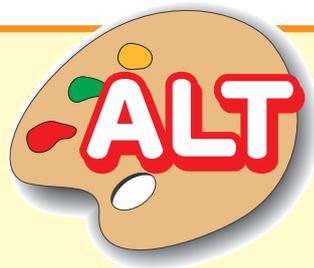
古墳時代の松浦

弥生時代も後期と呼ばれる時期（約千八百〜千七百年前）になると社会情勢が大きく変化します。中国の史書にも「倭国大乱」として記されているように、この時期は全国的に高地性集落と呼ばれる戦略的拠点に防ぎよ設備（環濠と土塁）を兼ねた集落が、丘陵上につくられます。さらには高塚墳墓と呼ばれる土盛りを高く施した墓も現れるようになり、三世紀の終わりがくから大和地方では大きな前方後円墳が造られてきます。人の頭くらの大きさの石を表面に張つけ、まわりには深い堀を巡らし、古墳の上には埴輪を立てています。死者を葬る部屋は深い穴を掘り、木の棺を置き、石や粘土で周りを囲んでいます。1基の古墳を造るには、膨大な数の人と資材が必要で、大きな力を持った豪族でなければできませんでした。各地の豪族たちも大和にならい4世紀の終わりがくまでには全国で古墳が造られるようになってきます。

この古墳時代に使用された器に土師器と須恵器があります。土師器は弥生土器の流れを受け継ぐ素焼きの土器で、須恵器は陶質で、古墳時代になって朝鮮半島から製作技術が伝わってきます。成形にはロクロを使用し、高温が保てる登り窯で焼成するため灰色をしています。土師器には主に生活用品として壺・小型丸底土器などがあり、須恵器は主に副葬品として壺・蓋・甕などに使用されています。写真は四世紀後半に製作された宮ノ下り遺跡の住居跡内から出土した土師器の甕です。近畿地方からの文化的影響があったことをうかがい知ることができる資料です。



▶宮ノ下り遺跡出土の甕



ALT コラム

グラント先生
(アメリカ出身)

Here Comes Spring 春が来た

暖かくなって、日も長くなり、朝鳥たちの声で目覚めるととても幸せな気持ちになります。日本にも春がやって来て、たくさんの素晴らしいものを運んでくれました。

4月のタイとラオスへの旅行から戻るとすぐに、桜を見に平戸城へ行きました。桜の花はとても美しく、私はカメラを持って行っていたので、たくさんの写真を撮りました。松浦のいたるところで咲いている桜を見ることも大好きです。ここはとても美しい国にある、本当に美しいまちだと思います。また、最近見かけるこいのぼりも田舎の風景に彩りを添えています。

だんだん暖かくなっていることもうれしいことの一つです。暖房器具を使うことも、ジャケットを着る必要もないし、アパートのドアや窓を開けっ放しにすることもできます。寒さが苦手な私も、今は野外にでることが多くなりました。また、夜が明けるのも早く、朝起きやすくなりました。そして、暖かくなって最もいいところは、バーベキューができることです。週末はバーベキューをしながら、ハンバーガーやホットドックを作って、野外で友人たちとくつろいだ時間を過ごすことが好きです。バーベキューは人々が集い、貴重な時間を過ごす素晴らしい方法です。

冬も悪くはありませんが、春になってジャケットを着ずに外にでられるので、より活動的になります。



「暖かくなると食欲も出てきますね」